

プロフィール

早稲田大学政治経済学部卒、University of Bradford 修士課程修了。外務省国際協力局経済協力専門員、在スーダン日本国大使館専門調査員を経て、平成 26 年度平和構築人材育成事業(国内研修)に参加。2015 年 7 月から、国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS)西エクアトリア地方事務所に、Reporting and Information Analyst (報告・情報分析官)として勤務。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

紛争後地域における平和維持・平和構築に関心を持ち、同分野で勤務するための将来的な機会を模索する中で本事業のことを知り、学生時代から参加を希望していました。大学院終了後に、外務省と大使館でアフリカ紛争後国家の担当を経験する中で、より現場に近い国連事務所での勤務を強く希望するに至り、本事業へ応募しました。

2. 国内研修に参加した感想は？

国内研修では、平和構築分野において長年の経験を持つ講師陣から、講義のみならず個人的にも多くのアドバイスを頂き、非常に有意義な経験となりました。実際に国連内部で勤務し始めてみると、国内研修で行った内容が、そのまま日々の業務に直結していることが実感できます。情勢分析の講義は、その後の自分の職務に直接応用できる内容でしたし、ロールプレイやワークショップ等の研修では、現場で各国連機関や NGO との会議を運営する疑似体験として、極めて実践的なものでした。

また、派遣されるポジションのマッチングにおいても、個人で国連ボランティア計画(UNV)に応募する場合には到底得られないようなサポートを頂くことができました。通常の方法で応募する場合、職務履歴等をオンライン登録するのみで、希望するポジションを具体的に伝える機会は与えられません。本事業を通じて、国内研修中に UNV の担当者と直に面談し、職務内容の希望を詳細に聞いて頂けたことで、幸運にも自分の期待していた職種に就く機会を得られました。

3. 就職先での活動について教えてください。

国連南スーダン共和国ミッション (UNMISS) の西エクアトリア地方事務所にて、主に政治・治安に関する情報分析と、各種オペレーション調整を担当しました。赴任前には、ウガンダにある国連ミッション地域事務所にて契約手続きを行い、その後、南スーダンの首都ジュバにある UNMISS 本部にて約 3 週間、セキュリティ確保や報告業務のための訓練を受けました。国連 PKO ミッションで



同時期に UNMISS に派遣された UNV と、ウガンダの国連地域事務所にて。赴任のための手続きや訓練と一緒にこなす中で、色々と情報交換ができた。

は一般的に、短期的な情報分析や部隊の運用等を一元的に統括する組織が設置されています。UNMISS では「Joint Operations Centre (JOC)」が同機能を担っており、担当官が国内 10 ヶ所の地方事務所に常駐しています。私は、JOC の西エクアトリア担当として、コンゴ民主共和国との国境に程近い、ヤンビオという街の地方事務所に派遣されました。

情報分析に関する業務では、日次・週次の情勢報告書を、UNMISS 本部に送付するのが主な任務でした。JOC は 24 時間体制で各地域の情勢をモニタリングしているため、地方担当官は基本的に、昼夜を問わず本部からの照会事項に迅速に応答しなければなりません。

ただし、現場での情勢分析には様々な困難が付きまといます。西エクアトリアには国際メディアすら一切入っておらず、また、紛争地特有の流言やプロパガンダとみられる情報も溢れています。国連 PKO が、信頼できる情報提供者から直接情報を収集しない限り、国際社会は現地で何が起きているかを正確に知ることができず、また、情報なくしては、他の国連諸機関による人道支援等も立案できません。情報の取捨選択には細心の注意が求められ、特に状況が流動的な時期には、自分が提供する報告が国連としての見解に直接反映されるため、報告書の一言一句に非常な緊張を強いられました。一方、担当地域の重要な情報が全て自分の手元に集まってくるため、特に政治・治安情勢の分析は、とてもやりがいのある充実した職務でした。

また、オペレーション調整業務では、域内のパトロールや国連特別機の運用を含め、西エクアトリアにおける活動計画を月次で作成していました。加えて、文民保護データベースの維持管理や早期警戒関連業務など、国連 PKO の地方レベルでの活動を包括的にみることができる仕事を多く担当させて頂きました。



ヘリコプターから撮影した西エクアトリア地方・ヤンビオ郊外の様子。南スーダンの伝統的な集落が点在している。地平線のあたりは、コンゴ民主共和国との国境。

4. 就職先での感想は？ 一番印象に残っていることは？

2015 年初頭時点では、西エクアトリアは南スーダンで最も安全な地域とされていました。しかし、同年 5 月以降、若年層で構成される地元の自警団 (Arrow Boys) が州政府と衝突するようになり、州都ヤンビオでも、治安状況が著しく悪化する事態が度々生じるようになりました。私が赴任したのはまさにその直後で、最初の数ヶ月は、国連 PKO の組織文化を一から学びつつ、非常に流動的な情勢の中、通常業務を何とかこなすだけで精一杯でした。ただ、派遣当初からこのような環境での勤務を経験できたことで、それまで漠然としていた国連 PKO への理解を急速に深められたように思います。特に私の場合、組織内での情報管理とコーディネーションが主な任務だったため、地方事務所と本部間の連絡調整を通じて、国連 PKO 内部の多岐に渡る各セクションの役割を、俯瞰的に理解できました。

生活面でも、特殊な環境を経験することになりました。UNMISS の地方事務所は、オフィスと住居スペースが一体となった国連キャンプとして機能しています。治安悪化時には、最長 3

ヶ月に渡って、敷地内から一步も外に出ずに仕事をするという状況が続きました。初めて経験するようなストレスに直面することも多々ありましたが、まさに自分の思い描いていた国連PKOでの勤務環境に身を置くことができ、何物にも代えがたい貴重な経験となりました。

最も印象に残っているのは、派遣から数ヶ月が経ち業務にも慣れてきた頃、2015年12月のとある数日間です。私の直属の上司も含めて年末の長期休暇を取っている職員が多い中、ひとりでJOCの地方オフィスに残って業務を回していたとき、州都ヤンビオで突発的な銃撃戦が発生しました。とり急ぎ本部に現状を伝えねば、と報告を出している合間にも、多数の住民が国連事務所の周辺に向かって避難してきて、事務所のセキュリティ確保や情報共有などで、にわかに忙殺といった状況に陥りました。そんな緊急対応を十数時間続けていると、急に熱っぽさを感じ始めました。疲れが出たかと思い、念のため医務室に行くと、熱帯熱マラリアに罹っていることが判明。しかし業務上頼れるスタッフは全員休暇中。40度近くの熱に朦朧としながら、注射を打って鳴り止まない電話に出続けていると、本部の報道官から突然の直電が―。「情報が足りない！ヤンビオ今どうなってるの？時間が無いから状況を全部口頭で教えて！」

熱で火照った頭を何とかフル回転させて、可能な限りの情報を慎重に伝えました。翌日、国連ニュースセンターのサイトを見てみると、世界中からの情勢報告に混じって、自分が伝えた情報が南スーダンのトピックスとして載っていました。

その後、数日ほどでヤンビオの混乱は収束し、マラリアも無事治りました。しかし、これ程までに体力と業務処理能力の限界を同時に試された事態は経験したことがなく、また、南スーダンの僻地で自分が行っている業務と、国際社会とが直接繋がった一瞬が、強く印象に残りました。



首都ジュバのJOC本部から出張にきた同僚と、ヤンビオの飛行場にて。UNMISSは首都ーヤンビオ間で週3便を運行し、職員の移動や物資の輸送を行っている。

5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

2016年6月末に契約を延長することができ、現在、引き続き同事務所にて勤務しています（同年8月、本稿執筆時点）。2017年からは、再度大学院に戻り、より実証的な政治分析の方法論を習得する予定です。本事業参加前には、紛争後国家の首都レベルでの政務業務に携わり、本事業では、フィールドレベルでの情勢分析の経験を積むことができました。よって、大学院修了後は、これまでの現場での知見を生かしつつ、国連本部の政務局やPKO局などで、より大局的な視点から、紛争後地域における政務分野に貢献できればと考えています。

6. 事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

本事業は、平和構築を含む国際協力分野に強い関心を持つ人にとって、日本においては極めて少ない、国際機関での経験を積める貴重な機会です。また、基本的に職を転々としなければならぬこの業界において、「同期」と呼べる仲間ができたことは、私にとって思っていた以上に幸せな経験でした。これまでに本事業に参加した諸先輩方に加えて、これから参加する皆さんとも、いずれ世界のどこかでお会いできるのを楽しみにしています。